

# 散歩ガイドマップ

## 羽村駅から拝島駅

羽村駅から拝島駅まで約6.5キロ

### まいまいず井戸(東京都指定史跡)

まいまいずとは、かたつむりのことで、井戸に向かって降りる通路の形がこれに似ているため名づけられた。鎌倉時代の創建と推定されている。井戸掘り技術の未発達時代に、掘りにくい砂礫層地帯に深い井戸を設けるため、このような形態をとったとされる。昭和35年頃まで使用された。

地表面での直径約16m、底面の直径約5m、深さ約4.3m、スリバチ状の窪地(くぼち)の中央に直径約1.2m、深さ5.9mの掘り井戸がある。地表面からは周壁を約2周して井戸に達する。

### 薬師堂・宗禅寺

堂橋の北側、急坂の途中に、天正11年(1583)から川崎一本木堂といわれた薬師堂があった。上水の建設や道路の拡張に伴い5度も移転し。昭和28年4月に宗禅寺(市内・川崎二)の境内に移築された。堂橋の名はこの堂に由来する。医王山・宗禅寺はあきる野市の広徳寺を本寺とする臨済宗建長寺派の寺。元和元年(1615)川崎村(現在羽村市の一部)村民により堂坂下の多摩川沿岸に建立された。

上水開削工事のため境内の一部が上水敷地となり、また、延宝2年(1674)洪水の氾濫にもあった。このため元禄8年(1695)、約400m東、新奥多摩街道沿いの現在地に移転した。



宗禅薬師堂

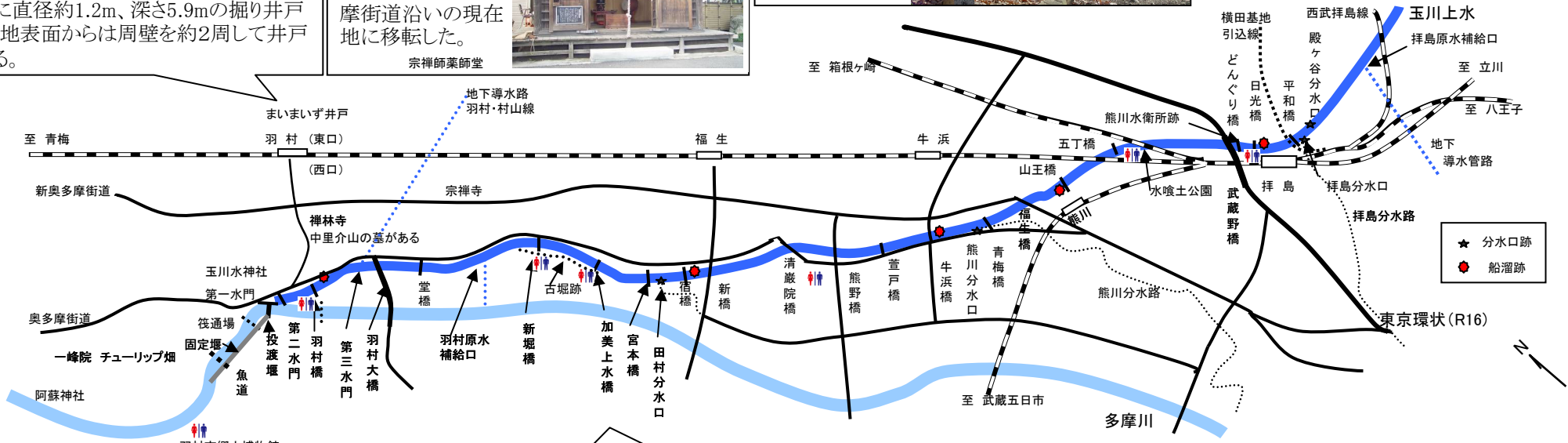
### 水喰土(みずくらいど)公園

武蔵野橋の上流、玉川上水沿いの右岸とJR青梅線との間にある公園で、福生市が設置。一説によれば上水開削時、流した水がこの付近で全て地中に吸い込まれ、工事に「失敗した」といわれ、その後この付近の地名が「水喰土」、「水喰戸」などと呼ばれたといわれている。

公園内にはこの、「失敗した」とされる「玉川上水開削工事跡」が福生市指定史跡として残されている。(右写真)



旧熊川水衛所・現どんぐり橋付近



### 羽村市郷土博物館

取水堰の上流、多摩川右岸にある。館内には上水の歴史や役割などの解説、江戸期や現代の実物大水門模型、江戸期の羽村堰再現模型などが展示されている。他に羽村の歴史、作家中里介山関係の展示、屋外に旧下田家住宅(国指定重要有形民俗文化財)なども復原されている。

### 古堀跡

新堀橋のやや上流から宮本橋上流付近までは、玉川上水開設当初の堀は今よりも南側の多摩川本流に添って掘られていた。しかし、度重なる洪水により堤防の流失や決壊に見舞われた。そこで元文5年(1740)にこの区間約337間(約600m)の水路を、従来の位置からやや北側へと掘り替えた。旧堀はこのとき掘りあげた土砂で埋められたが、一部残った旧堀跡が福生市指定史跡に指定され、付近一帯は福生加美上水公園となっている。

### 田村分水・田村酒造

慶應3年(1867)に玉川上水から呑水用として当初僅か5寸坪の分水(水溜井戸)が、田村家専用の邸内分水として許可された。その後明治8年には16寸坪に増量された。田村家は代々この地の名主を勤めた旧家である。9代目田村勘次郎の代に井戸を掘り当て、あまりの水のよさにこの井戸を「嘉泉」と名付け、酒造りを創めたとされる。文政5年(1822)の創業。戦後、近くに田用水の設楽分水取水口(閉鎖中)が造られ、この田村分水と一つになるので、現在合わせて福生分水とよばれる。

### 熊川分水

熊川分水は明治23年(1890)に完成した新しい分水。熊川村(当時)村民の飲用、灌漑、水車動力などの多目的用水として作られた。この用水の建設は、明治6年に石川弥八郎が、自邸内酒造のための動力源を確保する目的で始めた分水獲得の運動がきっかけ。このため総額1万5百余円の分水建設費用のうち、4千余円を石川氏が負担した。その他に製糸業を営む森田浪吉、森田八重二郎が各々2千7百余円、6百30余円を負担し、見返りに分水の占有使用や水車設置の特権を得た。

## 羽村取水堰(1)

### 投渡堰(なげわたしせき)

取水堰は投渡堰と固定堰でつくられている。第一水門寄りの投渡堰は、4本の石造りの橋台で3つに分かれ、鉄製の桁(けた)でつながれている。それぞれに13本の丸太を立て、この丸太を支えに横に木くいを並べさらに隙間を粗朶(そだ・木の枝)や砂利などで埋めている。

普段、水はこの堰を越えて流れているが、大雨などで多摩川が増水して一定量の水位(2.1m)を越え、堰や水門への負担が増大したときは桁受け丸太を折り、ピンを外すと横に渡した鉄の桁が水圧で押されて、堰を支えた丸太や粗朶など全て流れ去り、青い鉄の桁だけが残る(投渡木払い・ナギバライ)

左岸寄りの第1投渡堰から払われる。水位の変化を見ながら、第2堰や第3堰も払う。後、水量が下がれば再び堰を再構築(仕付け)する。1つの堰の仕付け費用は約100万円。仕付けは専門業者が担当している。

この構造は江戸時代の創設時から殆ど同じである。当時の堰は2つに分かれていた。石造りの橋台に以前は丸太と蛇籠でつくられた「弁慶杵」を用い、鉄製の桁の部分は「なぎ」と呼ばれた長さ、11.8mと10mのケヤキの丸太が使われていた。橋台は明治15年に今の石造りに改造され、明治42年にはケヤキ丸太が鉄製の桁になり、橋台の上に作業橋が作られた。

### 固定堰・筏通場・魚道

それまでは杵や蛇籠で作られていた固定堰が明治38年ごろ投渡堰から丸山下に至る330間(約594m)がりコンクリート製蒲鉾型に造り替えられた。このとき古くからあった筏通し場も投渡堰より3間おいて2間中に造りかえられた。

また、筏通場より更に川の中央部の固定堰に2002年5月魚道が新たに完成した。



払われた投渡堰・仕付け(再構築作業)が始まる

## 羽村取水堰(2)

### 第一水門

現在の第一水門は大正13年(1924)に増設された上流側のコンクリート(表面は花崗岩)製の新水門(4門・12口)と、下流側の明治33年(1900)に造られたレンガ(表面は玉石張り製)の旧水門(5門)とがある。

最大取水能力は9つの水門を全開すると毎秒22トンとなる。昭和35年に旧、39年に新水門が電動開閉式となる。

近くの羽村郷土博物館に江戸時代に使われた木製水門の復元模型と旧水門の模型が展示されている。

### 第二水門

この水門で第一水門で取り入れた多摩川の水量を調節する。最近まで大正3年6月に設置された板を抜き差しして、水量を手動で調節する水門が使われていたが、平成14年3月、すぐ下流に電動式の新水門が完成した。

余分な水は水門手前の小吐水門から多摩川本流へと戻される。なお1992年以降、地元福生市などの協定により常時毎秒2トン以上の水量を下流に流している。



第三水門付近 ここから流れは3方向に分かれる(左は地下導水路入り口)

### 第三水門

第一水門、第二水門を経て、取水された多摩川の水は、ここで流木やゴミなどが除かれ、三つの流れに分けられる。

一つは、奥多摩街道側の第三水門。この水門(12門は大正13年に竣工)から地下の羽村村山導水路に入り、約8.6キロ離れた村山・山口貯水池(多摩湖・狭山湖)へと送られる。

また一つは、多摩川側にある羽村導水ポンプ所(1979年完成)に導かれる。ここから内径1.35mの地下導水管を経て北西約3.1キロ上流にある小作浄水場に圧送されている。この導水管は羽村橋の上流側で上水を横断している。

残りの流れが別の水門(5門)を通り玉川上水となり、小平監視所まで開渠で流れ、さらに地下導水管に入り東村山浄水場へと続く。いずれも水道原水として今でも使われてい

## 玉川上水ワンポイントガイド No. 14

### 散歩ガイド (羽村駅から拝島駅)



羽村取水堰・第一水門 (左側旧水門、右側新水門)

### シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1 玉川上水の概要                 | 2 玉川上水の分水        |
| 3 玉川上水の分水・小平編             | 4 玉川上水と小平周辺の新田開発 |
| 5 玉川上水の橋                  | 6 玉川上水の水車        |
| 7 玉川上水の通船・船溜り             | 8 玉川上水の樹木・野草・野鳥  |
| 9 玉川上水と小金井サクラ             | 10 玉川上水あれこれ      |
| 11 玉川上水お勧め散歩ガイド           |                  |
| 12 玉川上水散歩ガイド 玉川上水駅から一橋学園駅 |                  |
| 13 玉川上水散歩ガイド 一橋学園駅から三鷹駅   |                  |

No	テーマ
14	玉川上水散歩ガイド 羽村駅から拝島駅
15	玉川上水散歩ガイド 拝島駅から玉川上水駅
16	玉川上水散歩ガイド 三鷹駅から富士見ヶ丘駅
17	玉川上水散歩ガイド 富士見ヶ丘駅から代田橋駅
18	玉川上水散歩ガイド 代田橋駅から新宿御苑駅
19	小平市内の用水分岐水門・分岐口めぐり
20	小平市内の石橋供養塔めぐり
発行 2009年4月 No1~No13発行済	

発行 小平・玉川上水再々発見の会  
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp  
代表 庄司徳治